

### 第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

滋賀県草津市立玉川中学校 教諭 地海拓未

1. 単元名 つながり学習「環境に目をむけてみよう!!-中庭のビオトープを進化させよう!!-」

#### 2. 単元の目標

・琵琶湖・淀川水系の環境問題や生態系の課題について知り、その対策や取り組みについて調べたり、環境を保全する取り組みの1つとしてビオトープにどのような利点があるのか知る。

(知識及び技能)

・調べて知った知識とフィールドワークで実際に体験したことを比較し、水との関わりを見直したり、身近な生態系に関心を持ち、よりよい未来の為に自分たちができることを考えたり、提案したりすることができる。

(思考力・判断力・表現力等)

・琵琶湖・淀川水系の生態系を守る為、ビオトープの制作に意欲的に取り組んだり、つながり学習発表会にむけて、取り組み内容をまとめたり、発表したりすることができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

#### 3. 単元について

##### (1) 教材観

本単元は、玉川中学校で10年以上前から取り組まれているつながり学習をベースに進めていく。本校のつながり学習の学校全体の学習目標は、『自ら課題を見つけ、協働の学びを推進し、行動する生徒の育成』である。この学習目標の達成にむけて、1年生では、『興味を持ち、自ら進んで探究する』を目標に、オーバルへの校外学習や障がい者理解学習などに取り組みながら、自分の興味のある分野を広く探究していく。2年生では、『自分の決めた課題を、専門家の協力を得て深く探究する』を目標に、立命館大学の教授やパナソニックなどの企業の力を借りながら、自分の興味のある分野を深く探究していく。3年生では、3年間の集大成として『平和・環境・人権・防災の学びを振り返り、持続可能な社会における自らの役割について考え、活動し、発信する』を目標にしている。自分たちがこれまで学習してきたことを振り返りながら、自分たちに何ができるか、何をやってみたいかを考え、地域や企業の力を借りながら、実際に活動し、感じたことや学んだことを発信していく。

本年度は、生徒に今年度「つながり学習」で自分がやってみたい取り組みのアンケートを取り、アンケート結果を教師で協議し、学年をいくつかのグループに分け、取り組んでいくことにした。

##### (2) 生徒観

本校の3年生は、1年生の校外学習で琵琶湖についての環境学習をおこなったり、障がい者理解学習、自衛隊に来校いただき防災学習などを行った。2年生では、地域の環境ボラン

ティア団体とゴミ拾いに参加したり、自作のおもちゃを制作して養護学校との交流を行ったりしている。環境の分野においては、地域の川の生き物調査を行ったり、校区に存在するパナソニックの工場の見学や環境への取り組みについて学習をしたりしている。

また、本校の3年生は、非常にエネルギーを持っている生徒たちである。フィールドワークなどには熱心に活動し、体を動かしたりすることが得意である。しかし反面、活動の意義を考えながら取り組んだり、ボランティア精神に乏しい言動がみられる。この活動を通して、自分たちの将来に関わる環境問題や人権問題、持続可能な社会にむけての課題や解決へと取り組みを見据えた視点を持つことを意識させていきたい。

### (3) 指導観

本単元の指導に関して、今まで自分たちがつながり学習で何を学んできたか、どんな課題があったかを考えることが重要であると考えている。本校のつながり学習は、毎年11月につながり学習発表会を開催しており、全校で学習した内容の発表を行っている。3年生では、自分たちが学んできた平和・環境・人権・防災などの学習を振り返るためにも、録画した発表会の映像を見直したりして、学びの振り返りからはじめていく。

その後、生徒たちに学校の時間で取り組みたいことを考えさせる。本学習において、金曜日の5・6時間目をフィールドワークの時間に設定しており、最大3日間の活動日の中で、やってみたい取り組みを考えさせ、全員にアンケート形式で提出させる。

今年度においては協議の結果、目標別に5つのグループを作成し、その中の1つが『環境に目をむけてみよう!!-中庭のビオトープを進化させよう!!-』です。この学習を進めるにあたり、地域で環境ボランティア活動に取り組んでおられる方や本校のESDサポーターの力を借りながら、取り組みを行っていくことにした。

これらの学習を通して、琵琶湖を有する滋賀県民として、水環境への興味・関心をより深め、琵琶湖をはじめとする水系の生態系の保全に関して、自分たちができることを考えたり話し合わせたりすることを通して、これからの活動につなげていくようにしたい。

### (4) ESD との関連

#### ・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

→相互性…滋賀県民にとって身近な琵琶湖の環境について、一度きりの取り組みではなく、学校の中庭にビオトープを制作することで、継続した環境保全への取り組みを行う。

→責任性…これまでの学習において、環境問題について学習したりすることはあっても実際に自分たちで行動することは少なかった。環境問題について知っているだけではなく、実際に行動する一歩となる活動にする。

#### ・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

→未来像を予想して計画を立てる力

どのような形態のビオトープが環境保全に役立つのかや、持続可能なビオトープを制作するために、資料を集めたり、計画を立て、作業を進めていくことができる。

→コミュニケーション力

どのようなビオトープを制作することが環境保全につながるかなどを相談しながら、

形やはたらきを想像しながら計画を立てたり、活動の成果をつながり学習発表で他者に発信したりすることができる。

→つながりを尊重する態度

ESD サポーターなどとの関わりを通して、身近な琵琶湖や川の環境について学ぶことで、他者とのつながりが自分たちの視野を広げたりすることに気づく。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

→自然環境や生態系の保全に対する関心の向上

環境保全を目的としてビオトープを制作することで、身近な川の環境や生態系を守ることへの関心を高めていく。

・達成が期待される SDGs

6 身近な水環境

11 持続可能な都市・まちづくり

#### 4. 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
<p>① 琵琶湖・淀川水系の環境問題やその対策や取り組みについての知識やビオトープの利点について理解している。</p> <p>② 学んだり、調べたことで得た知識や情報を、絵や図などを活用しながら、模造紙などにまとめている。</p>	<p>① ビオトープの制作に関して、環境の保全を目的として、具体的な案を出したりしている。</p> <p>② フィールドワークなどで体験したことから、自分たちにできることを考えたり、模造紙などに表現したりしている。</p>	<p>① 環境の保全を目標としたビオトープの制作に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>② フィールドワークなどで体験したことから、自分たちにできることを考え、つながり学習発表会で他者に発表したりしている。</p>

#### 5. 単元の指導計画（全15時間）

次	学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>○全体オリエンテーション</p> <p>・昨年度のつながり学習発表会の動画を視聴する。</p> <p>・SDGsに関連して、やってみたいことや学習してみたいことのアンケートをとる。</p>	<p>・昨年のつながり学習発表会の動画を流すことで、1～2年生に続く系統的な取り組みであることを意識させる。</p>	<p>(ウ)① (主体的)</p>

2	○ビオトープ（池）について知る。 ・ビオトープ（池）が環境に与える影響や環境保全にどのように役立っているかを知る。	・環境保全を目的としたビオトープを制作していく意識付けをさせる。 ・地域の環境ボランティア団体など、ビオトープの専門家などに来てもらい、話を聞く。	(ア)① (知・技) (イ)① (思・判・表)
3	○制作するビオトープの計画を立てる ・滋賀県内の小中学校に実際あるビオトープを参考にしながら、ビオトープの大きさや制作方法を考える。	・インターネットや図書館にある関連のある書物をいつでも活用できるよう状態にしておく。	(イ)① (思・判・表)
4・5・6	○実際に中庭を掘って、ビオトープ（池）を制作する。 ・中庭に穴を掘り、ビオトープ（池）を制作する。	・事前に制作手順などをまとめておき、生徒が見通しも持ちながら活動できるようにしておく。	(ウ)① (主体的)
7・8	○在来種の魚を捕まえに行き、ビオトープに放流する。 ・ESD スクールサポーターと共に琵琶湖の環境学習や川の実地調査を行う。 ・学校周辺の川で在来種の生き物を採取する。	・ESD スクールサポーターに協力してもらいながら、学校周辺の川の生き物や環境調査を行うことで、活動の意義をつかませる。	(イ)② (思・判・表)
9・10	○ビオトープの生き物調査や環境調査を行う。 ・ビオトープ（池）に放流した生き物を取り出し個体数に調査を行ったり、PAC テストなどを行ったりする。	・ESD スクールサポーターに協力してもらいながら、採取してきた生き物の増減を確認して、ビオトープの利点や欠点を考えさせる。	(イ)② (思・判・表)
11・12	○自分たちの取り組みを周りに伝える為の準備をする。 ・模造紙に成果をまとめる。 ・発表の為の原稿を作成する。	・活動の成果を、視覚的に分かりやすく他者に伝えるために、写真やデータなどを活用しながら模造紙を制作させる。	(ア)② (知・技) (イ)② (思・判・表)
13・14	○つながり学習会で発表する。 ・学習の成果を発表する。	・実際のビオトープを見てもらいながら発表をするために、PCなどを活用し、ライブ配信や事前に録画したりする。	(ウ)② (主体的)
15	○活動の振り返りをする。 ・活動をはじめる前と今の自分の気持ちを比較し、自分にできる環境保全を考える。	・身近な環境活動などを例に挙げながら、今後の展望を創造できるように支援する。	

